

さようなら原発ヒロシマ集会

3.11 フクシマを 忘れない！

福島第一原発事故からまもなく8年を迎えようとしています。いまだ事故は収束しておらず、多くの課題を残し、長期にわたる廃炉作業は先が見えていません。

福島県は、2020年の東京オリンピックまでにすべての避難者を県内に戻らせようとしています。放射線量が下がった訳ではなく、高線量の被災地に帰ることを余儀なくされようとしています。そのためにさまざまな補償が打ち切れ、被害者を被災者化する動きが顕著となっています。また、事故後、放射線量を測定するために設置されたモニタリングポスト2400台を撤去する計画を2018年3月20日に原子力規制委員会が発表したことに、子育て中の母親を始め多くの市民が継続するよう求め、自治体の長や議会から意見書も提出されました。原発サイト内に増え続ける汚染水を海に流すことが「現実的で唯一の選択肢」と原子力規制委員会の委員長が主張したことに対し、漁業者をはじめ多くの市民団体が「これ以上、海を汚さないで」と声を上げ続けています。

18歳未満の甲状腺がんもしくは疑いが、200人を超えています。しかし、健康調査検討委員会は、今も、原発事故との関係を否定し続け、高校生に原発サイトを見学させるなど、原発事故の被害をなかつたかのようにするだけではなく、新たな被曝をさせ続けています。その一方で、福島原発事故から8年が経ち、あたかも福島原発事故の被害が収束したかのような印象を福島県内外に広げると共に、「放射能安全神話」によって、放射能に対して正しい知識を得る機会が奪われ続けています。

私たちは、「脱原発」「エネルギー政策の転換」を求めて、さようなら原発1000万人アクション実行委員会に引き続き結集し、あらためて8年目のフクシマの現実から目をそらすことなく、被害者の訴えに耳を傾け、これ以上、被曝を強要しないためにも、福島をめぐる状況を変え、福島原発事故を風化させないための取り組みを市民とともに進めます。「2019原発のない福島を県民大集会」(3月16日福島)、「福島原発事故8周年ーさようなら原発全国集会」(3月21日代々木公園：予定)が開催されます。

広島においても今年もフクシマの被災者に連帯する「3.11フクシマを忘れない！さようなら原発ヒロシマ集会」を開催し、「脱原発」を広く市民に訴えます。ぜひ、ご参加ください。

◆福島からのゲスト 片岡輝美 (かたおか・てるみ)

1961年福島県生まれ。2005年、九条の会・会津若松・西条町学習会を結成し「自分のことばで平和を語る」をモットーに、毎月の学習会の他ピースウォークや講演会などを企画実施。

2011年3月15日から2週間義弟宅(三重県鈴鹿市)に四男、妹親子と避難。会津若松に戻り会津放射能情報センター(同年5月)を設立し代表となる。子ども説被ばく裁判の会共同代表。モニタリングポストの継続設置を求める市民の会共同代表。



◆呼びかけ人



坪井直
(被爆者)

秋葉忠利
(前広島市長)

森瀧春子
(市民運動家)

山田延廣
(弁護士)

岡田和樹
(有機農家)

3.11(月)

【第1部】 14:00～16:00
広島弁護士会館3階ホール
【第2部】 17:30～19:00
原爆ドーム前集会(終了後
デモ～中国電力本社前)

【主催】「フクシマを忘れない！さようなら原発ヒロシマ集会」実行委員会

【事務局】県原水禁・平和運動センター(広島市西区横川新町7-22 082-503-5855)

【協賛】「さようなら原発ヒロシマの会」「上関原発止めよう！広島ネットワーク」